

燃料電池車に適応する水素貯蔵材料 の可能性について

講師：三輪和利氏（豊田中央研究所 主任研究員）

講演概要：

FCV(燃料電池自動車)の燃料電池の燃料として水素を使用すれば、排気ガスはクリーンな水だけになり、さらに、エネルギー変換効率は50%以上になるので、地球温暖化の問題に大きく貢献できる。また、低炭素化に対応した水素サイクルが構築されれば、理想的な次世代自動車となり得る。しかし、自動車における水素貯蔵の方法は、たとえば圧縮水素を用いても、かなり多量のエネルギーを消費する問題がある。

三輪和利氏は平成12年度から、14年間にわたり、豊田中央研究所において、水素貯蔵材料の研究に携わり、新材料の開発を行ってきた。本講演では、その研究概要の紹介とともに、将来のFCVに対して水素貯蔵材料の可能性について述べる。

さらに、水素貯蔵材料の特性を量子力学の観点から、学部学生の知識でも十分理解できるように噛み砕いて説明する。

日時：2014年11月19日(水) 15:00~16:30

会場：豊橋技術科学大学 A-109 講義室

どなたでもご参加頂けます（直接会場にお越しください）

問合せ先：

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター
(研究支援課研究センター係)

TEL：0532-44-6574 FAX：0532-44-6568

e-mail：rcfvc@office.tut.ac.jp

